

専門分野

看護の統合と実践

授業科目	看護管理と災害看護	開講年次	単位	時間	必修	担当者	授業科目	医療安全と国際協力	開講年次	単位	時間	必修	担当者	
		3年次	1	30		花本富貴子			3年次	1	30		花本富貴子	
学習目標	1. 看護管理では、看護体制や業務など看護サービス管理と看護職の中で自分の役割を理解して、援助を必要とする個人とその家族へのサービスを効果的に提供するために、他職種との連携と看護ケアにおける看護師としての調整的役割とリーダーシップおよびマネジメントができる能力を養う。 2. 災害看護では、災害という特殊な状況の中で人々の生命や健康生活を支えるために、災害サイクルにおける発生から急性期に焦点を当てて災害医療の全体像を理解し、看護職が心得ておくべき災害時の応急処置、災害看護活動がイメージでき、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について学ぶ。						学習目標	1. 医療安全では、看護師が当事者となる重大な医療事故に遭遇することが多いことから、人は何故間違いをおかすのかを理解した上で、医療安全を学ぶ意義を理解し、看護業務や看護技術における危険認識力と危険回避を判断することの重要性を理解する。 2. 国際看護の基礎知識を学び、諸外国との協力をはじめとした国際看護活動について理解する。						
回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容				授業方法	講師/実務経験	
1	I. 看護管理 看護管理とマネジメント				講義	土森 志乃 教員 実務経験:有 【試験配点】 50点	1	I. 医療安全 医療安全と安全文化 ヒューマンエラー				講義	花本富貴子 教員 実務経験:有	
2	チーム医療と多職種連携						2	医療事故・看護事故の種類と構造						演習
3	マネジメントに必要な知識と技術						3							
4	看護をとりまく諸制度と経済の仕組み						4	医療安全とコミュニケーション						講義
5	II. 病院における看護管理の実際 1. 組織目標達成とマネジメント					小野悦子 帯広厚生病院 看護部長 実務経験:有	5	事故予防のシステムと対策 ・KYT				演習		
6	2. 日常業務のマネジメント						6	事故分析の手法の実践 ・RCA						
7	3. 施設・設備・物品等のマネジメント						7	インシデントレポート					演習	
8	III. 災害看護 災害医療、救急医療とトリアージ				講義	山本修司 帯広厚生病院 救命救急センター長 実務経験:有 【試験配点】 15点	8							
9	災害看護の基礎知識と法律				講義	佐々木祐輔 帯広厚生病院 救急看護認定 看護師 実務経験:有 【試験配点】 35点	9	診療の補助の事故防止 ・人工呼吸器関連のインシデントと事故防止				講義	柴田貴幸 帯広厚生病院 臨床工学技術 科技師長 実務経験:有	
10	災害サイクルに応じた災害看護						10	注射業務に用いる機器での事故防止						
11	災害と心のケア						11	病院における安全管理の実際				講義	山根邦子 帯広厚生病院 医療安全管理 室看護科長 実務経験:有	
12	トリアージ訓練						12							
13	災害に必要な技術 1) 心肺蘇生法（一次救命処置・BLS）				演習	山本修司 臨床看護師他	13	II. 医療・看護の国際協力 ・国際看護学とは ・国際看護学に関連する基礎知識 ・グローバルヘルス ・国際協力のしくみ ・開発協力と看護				講義	花本富貴子 教員 実務経験:有	
14	2) トリアージ（START）の実際 3) 応急処置・搬送				演習	山本修司 災害訓練参加	14							
15	試験						15	試験						
テキスト	看護管理：『看護管理』医学書院 災害看護：『臨床外科看護総論』 『災害看護学・国際看護学』医学書院						テキスト	医療安全：『医療安全』医学書院、 『看護実践マネジメント/医療安全』メジカルフレンド社、 『看護マネジメント入門』日本看護協会出版会 災害看護：『災害看護学・国際看護学』医学書院						
評価方法	看護管理：筆記試験 50点 災害看護：筆記試験と演習レポート、演習への参加態度 5割						評価方法	医療安全：筆記試験 70点 感染管理：筆記試験 30点						
先修条件	なし						先修条件	なし						

専門分野

看護の統合と実践

授業科目	看護実践と研究	開講年次	単位	時間	必修	担当者	授業科目	統合技術演習	開講年次	単位	時間	必修	担当者		
		3年次	1	30		坂本 肖子			3年次	1	30		花本富貴子		
学習目標	研究の全プロセスを理解し、看護に対する問題意識を持ち、事例に起きている現象や事実を分析して、解釈・推論して見えてきたこと、分かったこと、看護ケアで有効だった点などを明らかにし、臨地実習で受け持ったケースの看護展開の分析・考察を行い、レポートとしてまとめ発表する。						学習目標	1. チームメンバーの一員としての役割を理解し、多重課題、時間切迫、業務割り込みといった状況下で優先順位の判断ができる。 2. 対象の状況の変化を判断し、優先すべき援助を安全・安楽に実施できる。							
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験
1	看護研究の意義・目的					講義	坂本 肖子 教員 実務経験:有	1	複数の受け持ち患者のアセスメント介入計画・立案					演習	花本富貴子 教員 実務経験:有
2	看護研究のプロセス							2	複数患者の援助の優先順位を考えた行動計画の立案ができる						
3	看護研究方法の種類							3	1日の行動計画の発表・意見交換						
4	文献検討 研究計画書の目的と内容							4							
5	看護研究の倫理							5	患者情報の追加と割り込み状況についてアセスメント						
6	研究論文のまとめ方と発表							6	・ 割り込み状況の優先度の判断を行う ・ 指定した割り込み状況への対応						
7	ケーススタディの計画と実施							7							
8	ケーススタディの実際							8	複数患者のケアを実施する中で割り込み状況に対しての対応について発表・意見交換						
9	[ねらい]							9							
10	①問題意識をもち、研究計画を立てる					演習	全教員	10	急性期患者のアセスメント、計画立案					演習	
11	②実施した看護を考察し看護観を深める							11							
12	③論文作成と発表による研究の意義の再確認							12	患者の状態に合わせた留置カテーテル挿入の援助計画立案						
13	[方法]							13	患者に合わせた留置カテーテルの挿入の実際						
14	3年次の実習のいずれかでケーススタディを行なう							14	グループ発表 ・ 各グループで援助場面について発表を行う						
15	ケーススタディの発表							15	・ 全グループ終了後意見交換						
テキスト	『はじめてでも迷わない/看護のためのケース・スタディ』医学書院						テキスト	『看護実践マネジメント/医療安全』メヂカルフレンド社 『看護マネジメント入門』日本看護協会出版会							
評価方法	評価表により講師と担当で評価						評価方法	1 段階：評価表に基づく評価、参加態度 5割 2 段階：実技試験、参加態度 5割							
先修条件	臨地実習（地域・在宅看護論Ⅰ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習Ⅰ）の履修						先修条件	基礎看護学、臨地実習（基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域・在宅Ⅰ、成人Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅰ）の単位修得、臨地実習（老年Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅱ、母性、精神、地域・在宅Ⅱ）の履修							